

学校だより 2月号

平成30年 2月 1日

校長 山本 一臣

山手小学校ホームページ：「佐世保市立山手小学校」で検索するとご覧いただけます。



2月(如月・きさらぎ)に入りました

新しい年が始まったと思ったらもう2月です。寒さも厳しくなり、インフルエンザも心配です。本校のインフルエンザにかかっている児童は、現在いませんが、各ご家庭で十分注意していただきたいと思います。

今年度在校生が学校へ来る日があと34日、6年生は30日です。子どもたちには、進級・進学を意識させながら学年のまとめをしっかりしていきたいと思っています。

左の写真は、1月に実施した1年1組算数の研究授業の様子です。この日は佐世保市教育委員会から授業の様子を見に来られました。子どもたちは、たくさんの数をだれが見てもすぐ分かるように、考えながら並べていました。

その後の授業反省会では、子どもたちにとって効果的な指導ができたかどうか等話し合った後、教育委員会の先生から指導を受けました。頑張る子どもたちのためにこれからも研修を深めていきたいと思っています。



させば子育て講座

30日、来年度新1年生として入学予定の保護者の方々を対象に、入学説明会を開催しました。その時間帯に毎年「させば子育て講座」を行っており、今年は、元小学校の校長先生の永柄好子先生に「わが子にどんな財産をのこしたいですか」と題して講話をしていただきました。大変いいお話だったので、少しご紹介します。

子どもにプラスパワーの言葉を。「ないより、ある ある」できないことを言うのではなく、あることができることを誉めていく。人間年をとっていくとできないことが多くなっていくが、子どもはできることが増えていく。そこをよく見て誉めていく。自分が何を言ったかではなく、子どもがどう受け止めるかが大切。親が何を叱るか、何を誉めるかで子どもの価値観がつけられていく。人との関わりで大切なこと。①あいさつ②「はい」の返事③「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉。子どもを厳しく叱るのは、①自分や人の命に関わること②人をばかにしたり人権に関わること③人に迷惑をかけたとき。子育てはせいぜい18年、小学校までが特に大事。叱り方サンドイッチ方式・・・「スパッ」一叱りたいことのみ 「サラリッ」一くどくど言わず 「ニコッ」一励ます。子育ては、今から、ここから。「子どもの良いところ5つ言えますか？」子育てできなくなったら、「オギャー」と生まれてきてくれたときの感動を思い出して。他にもいいお話がたくさんあり、参加者の方々からも「元気をいただきました」「帰ってから子どもの話をたくさん聞きます」「子どもに誉め言葉のシャワーを浴びせたいと思います」等、たくさんの感想をいただきました。



給食集会

- 1日(木) 少年の日・安全点検
桜の聖母幼稚園との交流(5年)
- 2日(金) 学力テスト(1~6年)
- 6日(火) シガー先生来校日
- 7日(水) 委員会・代表委員会
- 11日(日) 祝・建国記念の日

2月 行事予定

- 12日(月) 振替休日
- 13日(火) 授業参観・懇談会(3年)
- 14日(水) 授業参観・懇談会(1・2・4年)
図書ボランティア読み聞かせ
- 15日(木) 授業参観・懇談会(5・6年)
(5年 思春期講話)
- 18日(日) 家庭の日
- 19日(月) 食育の日
- 20日(火) シガー先生来校日
音楽朝会
- 21日(水) クラブ活動
- 27日(火) 校旗継承式・お別れ集会
- 28日(水) 委員会活動

RAスピッツやゴールドファーブの研究

①普通の家庭 ②栄養管理の行き届いた施設 ③非行を犯した厚生母子寮の3グループについて、それぞれ100名の子どもの発達を数年に渡って調査した。

*①普通の家庭の子どもと、③の母子寮の子どもは同じように成長していった。
②の施設の子どものは、高い死亡率と低い発達指数を示した。91人のうち小学2年生までに34人が死亡。4歳までいた21人のうち発達指数は、45程度。全く歩行できなかった子ども5人。スプーンで食事がとれない子どもが12人。排泄がうまくできない子が6人。話せる子1人。全く話せない子が6人いた。

子どもは、栄養と衛生の不足によって死ぬのではない。抱きしめられるなど肌のふれ合いの欠乏によって死ぬのである。子どもにとって良い親とは、栄養や衛生について知識が豊富な親ではない。例え非行歴があっても、子どもとのふれ合いにたっぷり時間をとって話を聞いてくれる親である。知的発達の遅れも、親子の「心の絆が引き裂かれること」で起こる。

平成28年市P連講演会より